

# 2026年度 九州大学 前期 地理探究

## 【1】

問1

(1) 14時間30分

(2) 日照時間を最大限活用することで、職場や学校でのエネルギー消費量の節約、夕方の余暇時間の充実、レジャー・外食支出の増加による経済効果などの利点がある一方で、生活リズムの変化による健康への悪影響、熱中症リスクの増加、企業や公的機関のシステム変更や公共交通のダイヤ調整にコストがかかるなどの欠点がある。(148字)

問2 国内外の各都市と多くの航空路線で結ばれ、旅客や貨物を他の空港へと中継する機能をもつ地域の拠点空港である。一般に多くの離発着数をこなすために、複数の滑走路をもつ。(80字)

問3 シェンゲン圏のA群の空港へ向かう場合には、フランクフルト空港での出入国審査は行われませんが、非シェンゲン圏のB群の空港へ向かう場合には、フランクフルト空港での搭乗手続き時に出入国審査を受ける必要がある。(100字)

問4 従来は所要時間の短縮や燃料の消費を抑えるため最短に近い経路を飛行していたが、ロシアによるウクライナ侵攻の開始以降、日系航空会社の航空機はロシア上空の飛行を回避し、アラスカへと迂回する経路となった。(98字)

## 【2】

問1 平野部では高温多湿な気候を利用した自給的な稲作が労働集約的に行われ、サトウキビやココヤシなどの商品作物の栽培も盛んである。山間部では、多雨な気候や水はけのよい土壌を背景に茶の栽培が盛んであり、焼畑農業によってイモ類が栽培されてきた。(116字)

問2 A：カンボジア B：ベトナム C：インドネシア D：タイ

問3 輸入代替型工業の段階では衣類品の生産が大きな割合を占めていたが、品質が低く市場規模も限られていたことから停滞した。それに続く輸出指向型工業の初期段階では、安価な労働力をもとに衣類品の生産・輸出が大きな割合を占めていたが、中国などの新興国からの輸出が増大したことにより低下する傾向となった。また近年は人件費が高騰して機械類など付加価値の高い製品の生産が増加したため、衣類品の割合が低下した国が多い。(198字)

問4 インドネシアの国土面積の約7%を占めるジャワ島には、総人口の半数以上の人々が居住し、ジャカルタには政治・経済機能も一極集中している。しかし住宅不足や失業者増加によるスラム化や、地下水の過剰取水による地盤沈下が深刻化している。そこで政府は、他の島々への移住を促進するトランスミグラシ政策に加え、カリマンタン島への首都機能の移転を計画している。(170字)